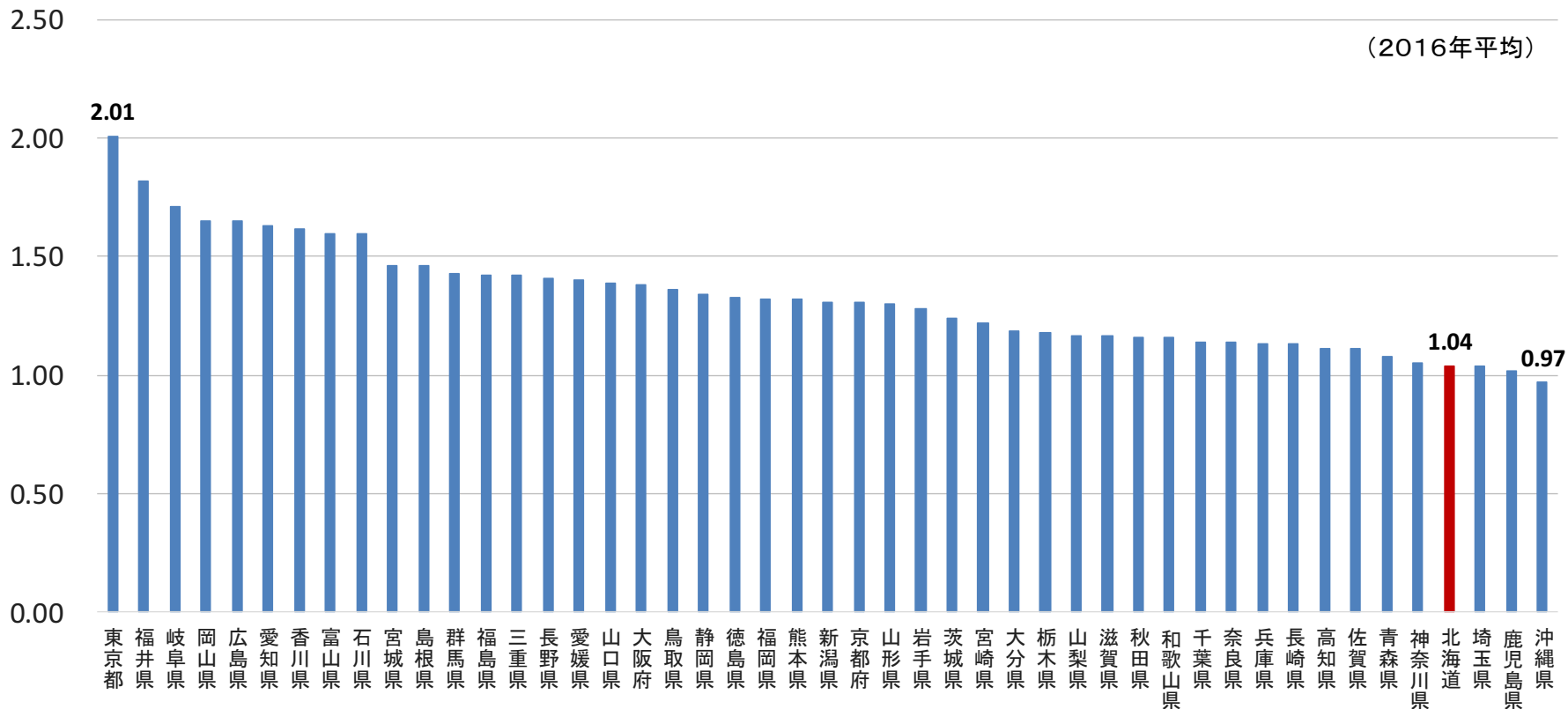


# 1. 都道府県有効求人倍率

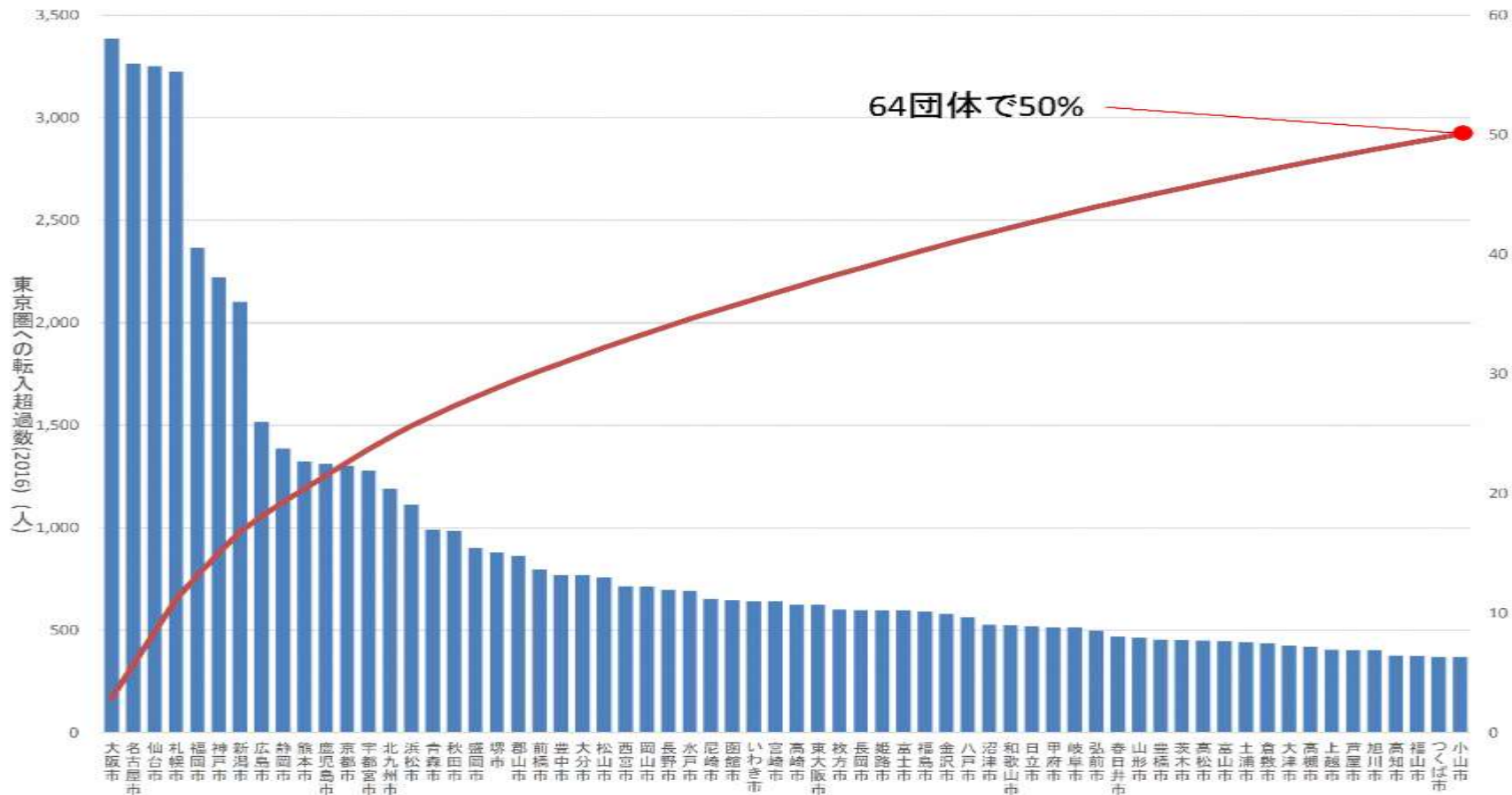
▶ 2016年平均の有効求人倍率(全国)は1.36倍となり、前年の1.20倍を0.16ポイント上回った。就業地別では、最高は東京都の2.01倍、最低は沖縄県の0.97倍だった。北海道は全国44位の1.04倍となった。



「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」厚生労働省

## 2. 東京圏への転入超過数 市町村別内訳と累積割合(2016年)

▶ 2016年における全国1719市町村のうち、東京圏への転入超過人数は64市で50%を超えている。



住民基本台帳の人口移動データに基づき、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局にて作成

### 3. 東京圏への移動理由についての考え

- ▶ 住民基本台帳人口移動報告に基づく分析によると、西日本の市町村では東京圏よりも、地域ブロック内の他府県や、東京圏以外の他の地域ブロックへ転出する割合が高い。
- ▶ アンケート調査によると、進学時及び就職時に東京圏に移動した人のうち、東京圏での生活を志望したのは半数程度である。(志望する大学・企業を選んだら結果的に東京圏だった者が4分の1程度)。

図 地域ブロック別の転出先の構成 (%)

※ 平成25年 東京圏の市町村を除く集計

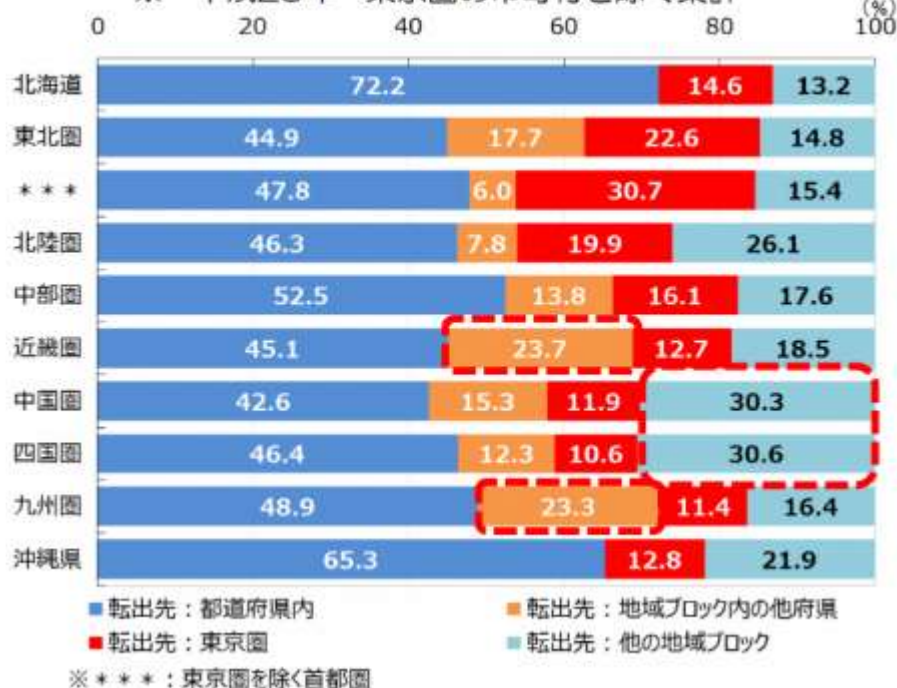
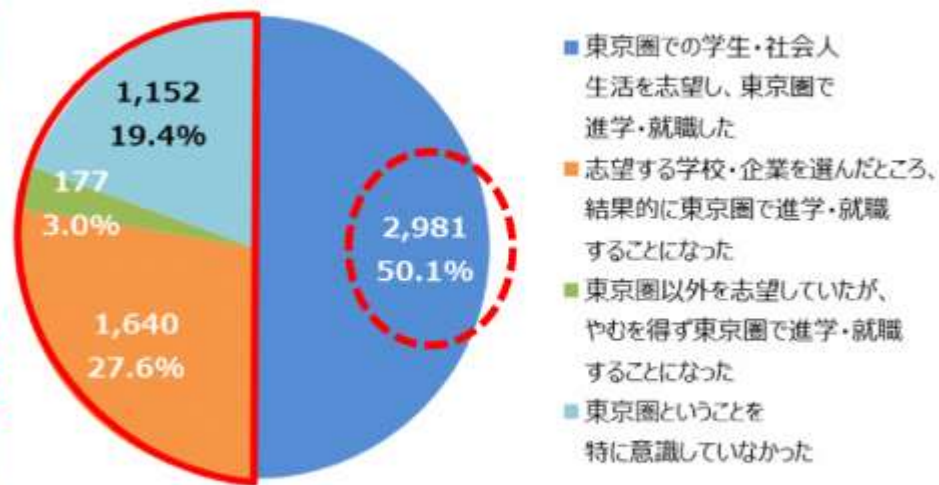


図 東京圏での進学・就職についての考え

※ 進学時・就職時に東京圏に移動した、  
地方出身の東京圏居住者：N=5,950



「大都市圏への移動等に関する背景調査」(2015年9月)まち・ひと・しごと創生本部事務局

# 4. 地方から東京圏に転入した若年層の意識

- ▶ 東京圏転入者が現在(東京圏)の仕事を選ぶにあたって重視したことは、男女ともに「給与水準」や「自分の関心に近い仕事ができること」が相当高い(6割超)。また、男性では「企業の将来性」、女性では「一都三県で仕事をする」とする割合も高い。女性では、さらに「育児・介護の制度が充実していること」も一定程度重視。(図1)
- ▶ 東京圏転入者が地元の就職先を選ばなかった理由は、男女ともに「一都三県で仕事をしなかったから」が最も高い。また、男性では「希望する仕事なかったから」が、女性では「一都三県で暮らしたかったから」も相当高い割合。女性では「親元や地元を離れたかったから」も高い割合。(図2)

図1 現在(東京圏)の仕事を選ぶにあたって重視したこと(複数回答)

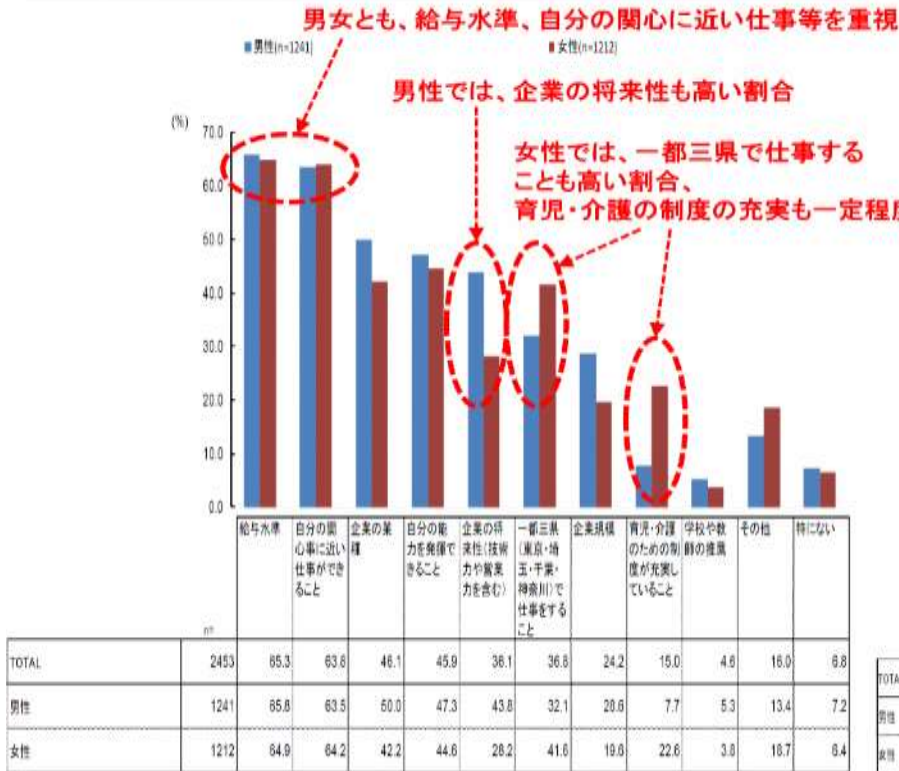
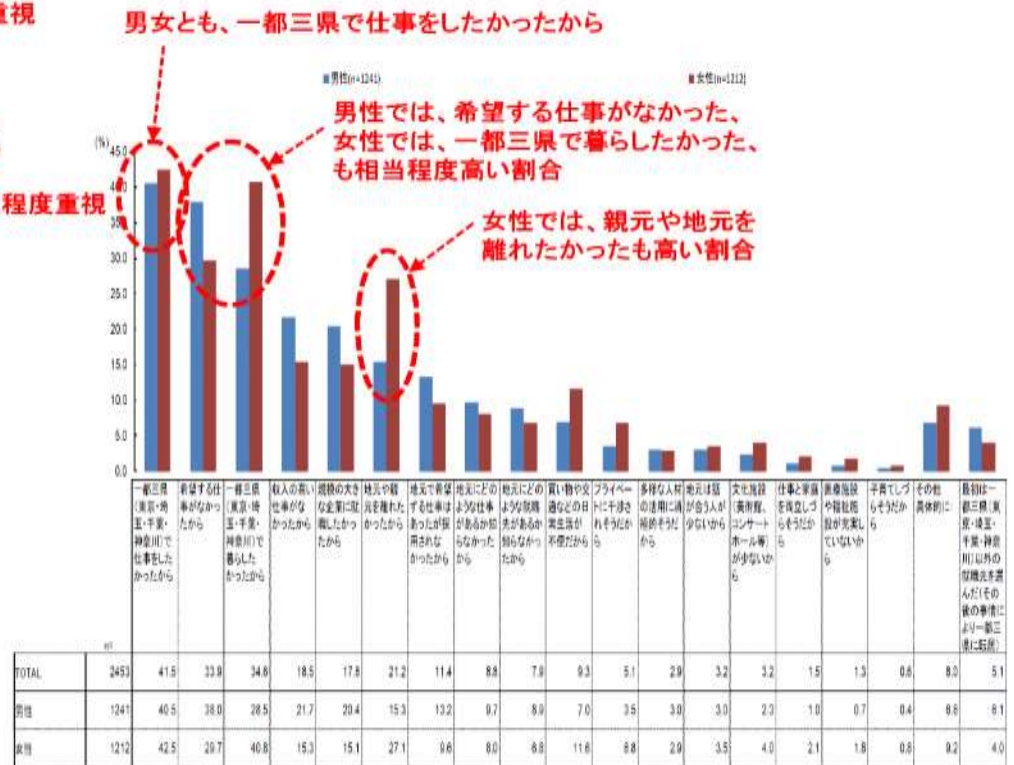


図2 地元の就職先を選ばなかった理由(複数回答、抜粋)



「東京圏に転入した若年者の『働き方』に関する意識調査」まち・ひと・しごと創生本部事務局